

西洋なし (ラ・フランス)

発芽 展葉 開花始 満開 落花 収穫盛
3.28 4.22 4.28 4.30 5.6 10.18

園芸試験場平年値

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度 (薬液100ℓ当たり)	農業使用基準		10a当たり 散布量	注意事項 (収穫前日数 総使用回数)を表す	散布日 (月/日)	使用薬剤	使用 濃度
			収穫前 使用時期	総使用 回数					
休眠期	胴枯病	1. バッチレート 原液	剪定時及び 病患部削り 取り直後	塗布は 3回以内		1. 輪紋病のいぼ皮病斑や胴枯病斑が枝幹部にあるので、粗皮削りを必ず行い、病斑部を削り取り、胴枯病の病斑部へ塗布する。 2. 胴枯病の進行した枝は切除し、園外に持ち出し処分する。			
3月下旬～発芽前	ハダニ類 越冬病害虫 輪紋病 (胴枯病)	水 1. ハーベストオイル 2. 石灰硫黄合剤 又は、 トップジンM水和剤	(98ℓ) (石灰硫黄合剤使用の場合90ℓ) 50倍(2ℓ) 10倍(10ℓ) 1,000倍(100g)	発芽前 発芽前 前日まで	300ℓ	1. 胴枯病の見られる園は石灰硫黄合剤を使用する。先にハーベストオイルを溶かしてから石灰硫黄合剤を混用し直ちに散布する。			
4月下旬 (開花直前)	黒斑細菌病 シンクイムシ類 ハマキムシ類	1. ICボルドー412 又は、デランフロアブル 2. フェニックスフロアブル	30倍(3.3kg) 1,000倍(100cc) 4,000倍(25cc)	60日前まで 前日まで	300ℓ	1. デランフロアブルは、散布時間により葉斑が出る場合があるので乾きやすい時に散布する。			
4月下旬	ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	10a当り100本を設置			詳細は2ページを参照			
5月上旬 (満開10日後)	輪紋病 胴枯病 (シンクイムシ類) (アブラムシ類) (ハマキムシ類)	1. オキシラン水和剤 2. トップジンM水和剤	600倍(166.6g) 1,500倍(66.6g)	3日前まで 前日まで	450ℓ	1. アブラムシ類の発生がみられる場合はウララD F2,000倍(収穫14日前まで、2回以内)を加用散布する。 2. シンクイムシ類が見られた時はフェニックスフロアブル4,000倍(前日まで、2回以内)を加用する。			
この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする									
5月中～下旬	輪紋病 胴枯病 シンクイムシ類 アブラムシ類 カメムシ類	1. オキシラン水和剤 2. ベンレート水和剤 3. ダントツ水溶剤 4. (バイカルティ)※2	600倍(166.6g) 2,000倍(50g) 2,000倍(50g) 1,000倍(100g)	3日前まで 前日まで 前日まで 前日まで	9回以内 4回以内 3回以内 -	1. 胴枯病の萎凋枯死花そうや、枯死枝を除去し、焼却する。 胴枯病患部の削り取り痕や太枝の切り口にバッチレート(せん定時及び患部削り取り直後、3回以内)を塗布する。			
6月上旬	輪紋病 シンクイムシ類 アブラムシ類 (胴枯病)	1. スクレアフロアブル 2. スカウトフロアブル※1 3. (バイカルティ)※2	3,000倍(33.3cc) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで	450ℓ	1. 黒斑細菌病の果実や枝は徹底して切除して処分する。			
6月中旬	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類 アブラムシ類 ハダニ類	1. アピオンE(展着剤) 2. ベンレート水和剤 3. ダントツ水溶剤 4. ダニコングフロアブル 5. (バイカルティ)※2	1,000倍(100cc) 2,000倍(50g) 2,000倍(50g) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで 前日まで 前日まで	500ℓ	1. この時期より雨が多い場合は輪紋病の感染が多くなるので散布間隔をあけないように注意する。			
6月下旬	病 の 重 点 防 除	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. アピオンE(展着剤) 2. オキシラン水和剤 3. テルスターフロアブル※1 4. (バイカルティ)※2	1,000倍(100cc) 600倍(166.6g) 3,000倍(33.3cc) 1,000倍(100g)	3日前まで 前日まで	1. オキシラン水和剤のおうとう・ももへの飛散に注意する。 2. 降雨前防除を基本とするが、強い雨で薬液が乾く前に流された時は再散布する。 3. この時期は、特に適量散布に留意する。			
		輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. アピオンE(展着剤) 2. バレード15フロアブル 3. テルスターフロアブル※1	1,000倍(100cc) 2,000倍(50cc) 3,000倍(33.3cc)	前日まで 前日まで	2回以内 2回以内			
7月上旬	輪紋病 ハマキムシ類 シンクイムシ類 クワコナカイガラムシ	1. アピオンE(展着剤) 2. オキシラン水和剤 3. ダーズバンDF 4. (バイカルティ)※2	1,000倍(100cc) 600倍(166.6g) 3,000倍(33.3g) 1,000倍(100g)	3日前まで 30日前まで	600ℓ	1. シンクイムシ類の発生が見られる園地では防除間隔があかないように注意する。 2. ナリアWDGはルレクチエの果実に薬害が生じるおそれがあるので、代わりにファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍(前日まで、3回以内)をする。 3. 降雨が続く場合や強い降雨の後は、次回散布まで間隔を空けない。			
7月中旬	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類 ハダニ類	1. アピオンE(展着剤) 2. オキシラン水和剤 3. モスピラン顆粒水溶剤 4. ダニゲッターフロアブル 5. (バイカルティ)※2	1,000倍(100cc) 600倍(166.6g) 2,000倍(50g) 2,000倍(50cc) 1,000倍(100g)	3日前まで 前日まで 前日まで	600ℓ	1. ダニゲッターフロアブルは開花期の水稲に不稔の薬害を生じる場合があり、飛散させない。			
7月下旬	輪紋病 胴枯病 シンクイムシ類 カメムシ類 カイガラムシ類	1. トップジンM水和剤 2. オキシラン水和剤 3. スプラサイド水和剤 4. (バイカルティ)※2	1,500倍(66.6g) 600倍(166.6g) 1,500倍(66.6g) 1,000倍(100g)	前日まで 3日前まで 無袋21日前まで	600ℓ	1. ナシヒメシンクイの発生が多い場合追加設置する。 2. カメムシ類が多い時はスプラサイド水和剤に替えて、テルスター水和剤※11,000倍(前日まで、2回以内)を散布する。 3. 早生種では、スプラサイド水和剤の収穫前使用日数(収穫21日前まで)を考えて収穫する。 4. 他樹種へ飛散させない。			
8月上旬	シンクイムシ類 (ハダニ類)	1. オキシンドー水和剤80 2. バイスロイドEW※1	1,200倍(83.3g) 2,000倍(50cc)	3日前まで 7日前まで	600ℓ	1. りんごつがるの隣接園では8月5日頃までに終了する。(オキシンドー水和剤80はりんごで収穫14日前まで) 2. ナシヒメシンクイは桃、スモモなどの心折れが見られる場合は特に注意し、8月以降9月中旬まで散布間隔を10日以上開けない様にする。 3. ハダニ類の発生がみられた場合はコロマイト水和剤2,000倍(前日まで、1回)を加用散布する。コロマイト水和剤はおうとう、ももに登録がないので飛散させない。 4. ベルクート水和剤は畝耕種、ルレクチエに薬害のおそれがあるので飛散させない。			
8月中旬	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. フリントフロアブル25 2. バリアード顆粒水和剤	2,000倍(50cc) 2,000倍(50g)	前日まで 前日まで	600ℓ				
8月下旬	輪紋病、胴枯病 シンクイムシ類	1. トップジンM水和剤 2. エクシレルSE	1,500倍(66.6g) 5,000倍(20cc)	前日まで 前日まで	600ℓ				
9月上旬	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. オキシンドー水和剤80 2. アグロスリン水和剤※1	1,200倍(83.3g) 1,000倍(100g)	3日前まで 前日まで	600ℓ	1. ナシヒメシンクイの発生、産卵時期なので、散布むらのないようについていねいに散布する。			
9月中旬	重点 防 除	輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. トップジンM水和剤 2. アグロスリン水和剤※1	1,500倍(66.6g) 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内			
		輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	1. ストライド顆粒水和剤 2. エクシレルSE	1,500倍(66.6g) 5,000倍(20cc)	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	1. 薬害防止の為、高温時(25度以上)の散布は避ける。 2. ストライド顆粒水和剤は日本なしに登録がないので散布しない。		
9月下旬～10月上旬	輪紋病 シンクイムシ類、カメムシ類	1. ストロビードライフロアブル 2. モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍(50g) 2,000倍(50g)	前日まで 前日まで	600ℓ				
収穫後	黒斑細菌病	1. アピオンE(展着剤) 2. ICボルドー412	1,000倍(100cc) 30倍(3.3kg)	- -	600ℓ	1. 収穫が終わっていない他樹種へ飛散させない。			
落葉後	越冬病害虫	1. 石灰硫黄合剤	10倍(10ℓ)	発芽前	300ℓ				

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。 オートサイド水和剤80、キャブレート水和剤、オキシラン水和剤などキャブタンを含む剤の使用基準は合計で9回以内である。 オキシラン水和剤、オキシンドー水和剤80、キノンドーフロアブルなど有機銅を含む剤の使用基準は合計で9回以内である。 ※1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。
※2 バイカルティは、日持ちの向上が期待できる。

西洋なし(ラ・フランス)